

キツネやムジナのいたずら



まだ、たんぼや麦畑や蕎麦畑が多く、草深いころのお話
です。

ある日、魚取りのおじいさんが、日暮れの帰り道、油揚げを買って、一杯きげんでの道すがら、暗がりの森にきれいな娘が、にこにこして話しかけるように立っていました。はじめは気にもしませんでしたが、そばまで行くと娘の姿はフッと消え、とたんに肩に「ズッシリ」と、のしかかるものがあり、瞬間「あっ、あの娘は……」と、感づき一目散に走りだしました。そして肩の重みを夢中で払いのけると、その手にムジナの体の毛が不気味にさわりました。やっとの思いで家にたどりつき「ホッ」として魚と油揚げを見ると、なんとからっば……食べられてしまったのです。

また、夏の夜道でのお話です。「夏だというのに雪が降ってきました。思いがけない雪に途方にくれ、ジッと、目をつわり立ちすくみました。「こんな時には睡草にかざる」と火をつけ一服すると、今まで雪で見当がつかなかったあたりが、はっきりしてきました。懐中電灯でよくよく見ると、大雪の道は砂利道だったそうなの……。

しかし、いたずらばかりではありません。夏の夕暮れにちょうちんのあかりが行列をつくって「チラチラ チラチラ」行ったり来たり。キツネの嫁入りと言われる風景が見られたそうです。